

新年を迎えて

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響による長期間の学校の臨時休業を経て、感染予防対策をとりながらの教育活動が今も続いています。保護者や教職員をはじめとする関係の皆様には、子どもたちの学びの保障と心身の健康の保持のためご尽力をいただいておりますことに、改めて心より感謝申し上げます。

現在、府内全域において、学校の通信ネットワークの整備や児童生徒一人一台のタブレット端末の整備が急速に進められています。平時においてもこれらのICT機器を活用することにより、学校と学校、学校と大学・企業、海外ともつながり交流する遠隔教育や、子どもの能力や適性など個々の状況に応じた教育を進めることが可能となります。

昨春は、「主体的・対話的で深い学び」を掲げる新学習指導要領が小学校で全面实施となりました。併せて、府教育委員会においては、幼児教育の質の向上に向けて「京都府幼児教育センター」を開設するとともに、丹後地域の府立高校に学舎制を導入し、清新高等学校を開校するなど、地域のニーズに応える教育を展開しているところです。

コロナ禍にあっても、新しい時代の教育は既にその幕を開けております。学校の集団の中で学ぶことの大切さが改めて見直されている中、今後は、従来の対面型の指導とICTを活用した指導のそれぞれの良さを活かしたハイブリッド型の教育により、個々に応じた最適な学びと学校ならではの協働的な学びの実践に努め、子どもたちが未来の社会を切り拓いていくための資質・能力を幅広くむ教育を着実に進めてまいります。

めまぐるしく変化していく社会においては、私も府教育委員会自身が、変化を恐れず前向きに受け止め、時代と社会の要請に応じた京都府の教育へと進化させていかなければなりません。現在、そのための指針となる新しい「京都府教育振興プラン」の検討を進めております。パブリックコメントなどにより府民の皆様からも広くご意見をいただきながら、今年度中の策定を目指してまいります。

「京都府教育振興プラン」の中間案には、すべての子どもが「包み込まれているという感覚」を持ち、それを揺るぐことのない土台として「自己肯定感」を幅広く、予測が困難な社会においても主体的に学ぶ考えることができる力や、失敗しても再び挑戦できる強い心をも身につけられるよう、教育に関わるすべての人々が等しくこの想いを胸に子どもたちに接していくことを基本理念の一つとして掲げました。

本府が目指す教育の姿に近づくため、すべての施策に共通するツールとして「ICTの積極的な活用」を位置づけるとともに、新しい少人数指導体制の構築や教科担任制の導入、教職員の働き方改革等の子どもたちの学びを支える環境整備、人口減少が一層進む中で魅力ある学校づくりを進める「府立高校ビジョン」の策定や地域連携の推進など、教育課題の解決に向けた取組を重点的に進めることとしております。

また、これらの施策の推進の視点として「多様な子どもたち一人一人を大切にし、誰一人取り残すことのない教育」等を掲げました。いじめや不登校、貧困などに加え、特別な支援を要する子どもが増加する中、様々な状況に置かれた子どもも安心して学ぶことができるよう、これまで以上に一人一人に寄り添う丁寧な指導を行ってまいります。

令和三年のオリンピック・パラリンピックの開催や、令和四年の文化庁の京都への全面的な移転など、スポーツや文化の分野においても大きな動きが続きます。子どもたちが様々なスポーツや芸術、京都が世界に誇る文化財などに親しむ機会を充実させることにより、学力のみならず、豊かな感性と創造力、健やかな心身を幅広くむ教育を進めてまいります。

京都府が目指す「子育て環境日本一」の実現に向けても、「教育環境日本一」は欠かせない柱であると言えます。次代を担う子どもたちがよりよい社会と幸福な人生の創り手となるよう、市町（組合）教育委員会をはじめ関係機関との連携を強化するとともに、「京都府教育振興プラン」に基づく新しい京都府の教育に全力を尽くす所存であります。

結びにあたり、今年一年の皆様の「ご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

令和三年一月